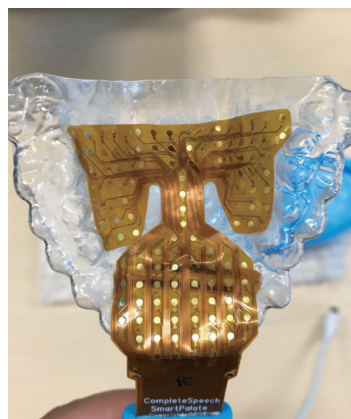
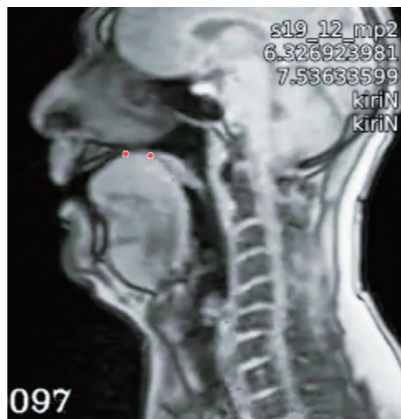
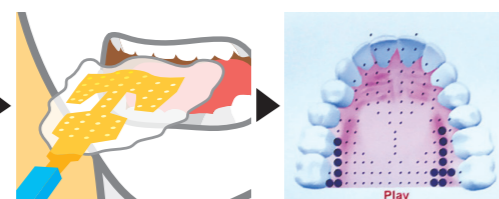


実験で集める

国語研では、実験的な研究も行っています。さまざまな装置を用いた実験によってことばに関する客観的・定量的で再現性のあるデータを収集分析することで、ことばの理解を科学的に深めることを目指しています。

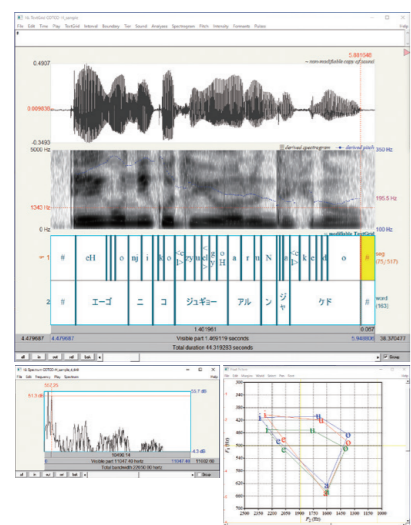
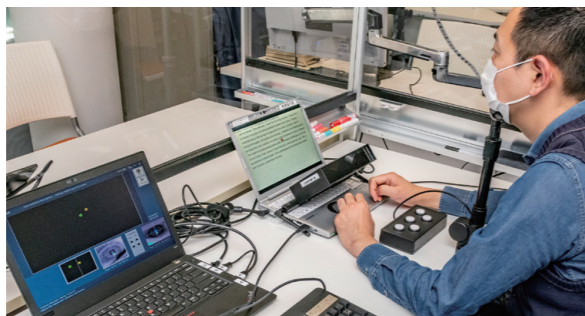


動的パラトグラム用の人工口蓋。パラトグラムとは、舌と口蓋（口腔の上壁）との接触を示す図のことをいいます。人工口蓋にはセンサーが設置されていて、これをくわえてことばを発音すると、どの音を発音しているときに舌が口蓋のどこに触れているかがわかります（右下）。

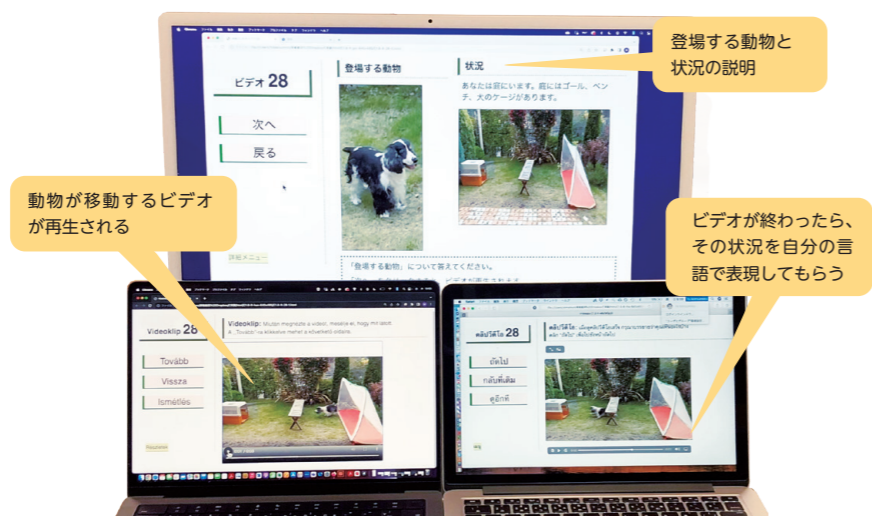


リアルタイム MRI 動画。リアルタイム MRI 動画は、医療用 MRI 装置を利用した撮像技術で、唇・舌・口蓋・喉頭など音声器官全体の運動を鮮明に撮影することができます。これは「キリン」の「ン」の調音位置で、舌を硬口蓋（口腔の上壁のうち歯茎の後ろの硬い部分）に接触させて軟口蓋（硬口蓋の後ろ）を下げて呼気を鼻へも通すことによって生じる硬口蓋鼻音であることがわかります。

アイトラッキング（視線走査）装置。画面に表示された文を読むときの視線の位置と停留時間を計測します。どの部分を読むのに時間がかかっているのかを調べることで、文の処理機構の解明や、読みやすい文の提案につなげようとしています。



音声分析の例。録音された音声を音響分析ソフトを用いて子音区間・母音区間などに分割し、基本周波数やスペクトル、継続時間、強度などさまざまな音響特徴量を抽出することで、発音の特徴を明らかにできます。

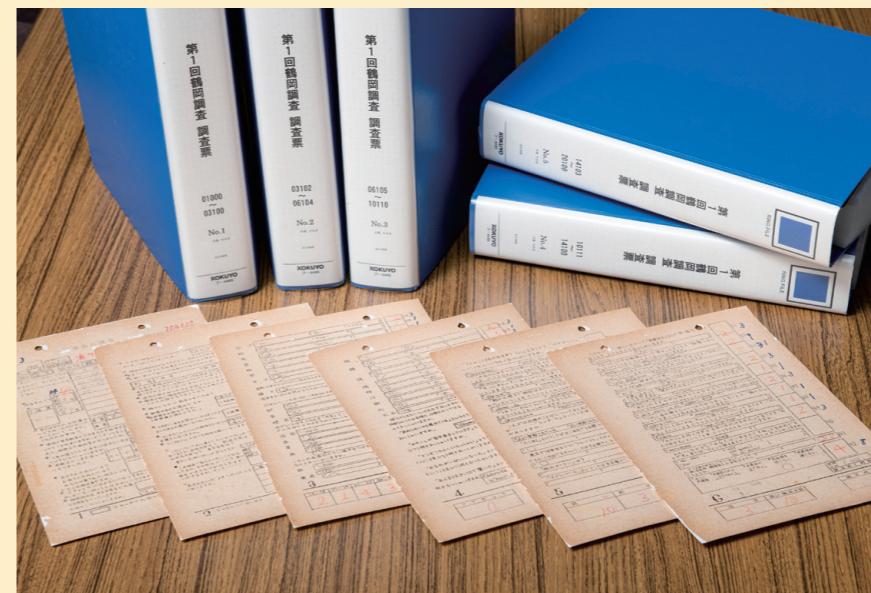


対照言語学のビデオ発話実験の1シーン。ある言語をほかの言語と比較して類似点や相違点を分析することで、それらの言語に関する理解を深めようというのが、対照言語学です。短いビデオ映像を示し、その状況を実験協力者に自分の言語で表現してもらいます。同じ場面を表す言語表現を、ほかの言語と比較することができます。写真は、日本語、ハンガリー語、タイ語バージョンを表示して並べたもの。

集めたことばを保存する

これまで国語研が集めたり作成したりしてきた、ことばに関する資料や文献は、どれもとても貴重なものです。それらは、国語研の貴重書庫や研究資料室、メディア保管庫などに、大切に保存しています。

しかし、紙は劣化します。音声・映像資料は読み取れなくなる可能性があります。過去の資料を状態よく保存することに加え、デジタル化して公開するなど、貴重な資料を活用できるようにする取り組みも行っています。



1950年に山形県鶴岡市で実施した共通語化に関する第1回調査で回収された調査票。劣化しているため1枚ずつ裏紙を貼って保存しています。鶴岡市での調査はこれまで4回実施しており、全ての調査票の原本を保存するとともに、スキャンしたデータも保存しています。また、回答データを収録したデータベースとその解説を国語研のウェブサイトで公開しています。



メディア保管庫には、オープンリールテープ 2,833点、カセットテープ 17,607点、ミニディスク 1,333点、デジタルオーディオテープ 23,522点、VHSテープ 647点などの音声・映像資料が保管してあります。



オープンリールテープ（上）と録音された音声をデジタル化する装置（下）。オープンリールテープは8チャンネルあり、この装置を用いると8つのチャンネルを別ファイルとして読み込んで変換できます。



カセットテープ（上）と録音された音声をデジタル化する装置（下）。2倍速で、しかもA面とB面の音声を一度に読み込んで変換することができます。そのため、録音されている実時間の4倍のスピードで変換が可能です。大量のカセットテープがあるので、スピードは重要です。



国立国語研究所では、日本語・言語研究のために集めた基礎資料やデータを整備し、広く社会に提供しています。その多くが申請なしで国語研のホームページから利用できます。まずは「データ・資料を探す」の検索パネルで、気になる資料の種類や研究分野、キーワードを入力してみませんか。そこは豊かなことばの世界の入り口です。